

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0672500436		
法人名	最上町		
事業所名	最上町認知症高齢者グループホームやすらぎの家		
所在地	山形県最上郡最上町大字向町64-3		
自己評価作成日	令和 2 年 7 月 14 日	開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2 年 8 月 5 日	評価結果決定日	令和 2 年 9 月 1 日

(ユニット名)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院・老健・包括支援センターと併設しており、利用者、家族が安心して利用できる体制が整っている。訪問やボランティア等の受け入れも積極的に行い、利用者を楽しんでいただける時間を大切にしている。また空調管理の徹底と、食事に関しては、季節を感じてもらえるよう、山菜など地元ならではの旬の食材を取り入れた郷土料理なども提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開放的で家庭的な雰囲気を大切にしたいホームでは、利用者が好きなことに勤しみ、活躍の場を自信にして、自由に自分のペースで活動しながら暮らしています。自粛生活で出かけられないストレスを希望食や手作りおやつなど食事面に配慮して補い、多彩なボランティアの訪問や楽しい企画を利用者と一緒に計画するなど、理念の「ゆっくり・一緒に・楽しく」を一人ひとりに寄り添った支援で実践しています。医療・保健・福祉の拠点「ウェルネスサンプラザ」の一角にある立地を活かして互いに連携しながら、利用者・家族・職員皆の安心につなげている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中で「ゆっくり・一緒に・楽しく」の支援を心掛け、地域との交流を図りながら、住み慣れた地域での生活が継続できるよう努力している。	利用者一人ひとりの様子に目を配り、声がけにも工夫しながら寄り添った支援に努めている。皆で楽しむ活動や企画は利用者も一緒に計画して張り合いや自信が持てる場面につなげ、理念に沿った取り組みを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人施設との交流会、紙芝居、餅つき、コーラス隊の訪問等、小学校から高齢者まで幅広く交流している。	避難訓練時の応援やボランティアの訪問、食材の差し入れなど地元住民からの協力があり、地域に密着した交流が来ている。事業所で開催される「認知症カフェ」では手作りおやつを提供して利用者・家族・住民の楽しみの一つになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成29年度から、主に地域に出向き「認知症カフェ」を開催し、地域で暮らす認知症の方やその家族と手作りおやつ等で一緒にお茶を飲みながら、認知症について情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、事業実施状況、利用者の状況等報告した中での意見に関し、会議録、申し送りノートで伝達、検討事項に関しては業務検討会等で話し合いを行い、サービス向上に繋げている。	ウェルネスサンブラザにある立地条件を活かして各方面からの出席があり、事業所の状況やヒヤリハット報告などに様々な立場から意見や情報をもらい運営に役立てている。自粛中の食事面に配慮した取り組みには参加者からも評価を得ている。	会議は参加者も多く有意義に進められている。持ち帰った検討事項は次回の会議で結果を報告するなど、議論の継続にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括センター主催のサービス機関連絡会議への参加を通じ、情報提供を行っている。また運営推進会議に町の包括センター長の参加があり、相談できる体制ができている。	地域包括支援センター主催のサービス機関連絡会議には社会福祉協議会やケアマネジャー、町内の各事業所、病院関係者などが集まり情報交換や勉強会をしてサービスに活かしている。また行政とも連携しながら良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	併設施設と合同で身体拘束廃止班、身体拘束適正化委員会を設け、身体拘束に関する会議、研修会を実施している。また玄関はほとんど開放しており、拘束を行わないケアに努めている。	年間計画で研修を行い、事故防止委員会での検証や職員への身体拘束適正化に関するアンケートで拘束のないケアの実践にむけて取り組んでいる。また十分な職員体制で利用者を見守り、自由な生活を大切にした支援を心掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の報道や研修会等があれば、申し送り、復命書等で伝達を行い、虐待防止の意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等について学ぶ機会を設けていないが、今年度確実に学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者、家族が不安にならないよう説明し理解と同意を得て利用して頂いている。解約時と同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置し、家族等が意見、要望等を気軽に出来るようにしている。また運営推進会議に家族、利用者代表が参加することで、発言できる機会を設け、運営に反映できるように努めている	コロナ禍で面会もままならない中、家族等にはこまめな近況報告や「やすらぎの家定期便」で連絡を密に取っている。利用者にも丁寧に説明して理解をもらい、その方に合わせて選択できる場面作りや食後に「何かありませんか」と意見が言える場で要望に応じている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回の業務検討会で、意見等発言できる機会を設けているが、若い職員からの発言が少ないため、広く意見がでるよう配慮していきたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施しているが、まだ手探り状態で行っている為、反映まで至っていない。令和3年度からは本格的導入予定である。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上に関して、施設内の職員研修会、施設外の派遣研修と2本柱で行っているが、今年度は新型コロナ関係で、施設内研修はアンケート方式で行い、施設外への派遣研修はまだ実施していない。しかし異動職員への3ヵ月間のOJTは実施している。	外部・内部共に研修の機会を設けて職員の質向上を図っているが、今期はコロナ禍にあり職員にはアンケートでの内部研修を実施している。また職員は各委員会（事故防止・感染症対策・職員資質向上…など）に所属して活動し、事業所全体のレベルアップに努めている。	各分野で委員会があり対策や検討を図っていることから、担当委員に限らず皆の意見が反映されるような委員会活動に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最上、村山地区グループホーム連絡協議会に参加し定期的に意見交換を行っている。	県や最上、村山地区グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催のサービス機関連絡協議会に参加して、同業者との交流を通じ情報交換しながらサービスの質向上に取り組んでいる。また行ける時は職員を交換研修に派遣して学びやケアに活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に担当ケアマネ等から情報提供してもらうことで、課題等の把握を行い、直接本人から話を聞くことで、本人を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、家族等からの聞き取りを踏まえ、アセスメントを実施し、課題や要望等をケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や申請の時点でサービス情報の提供を行い、その人が必要とするサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の「出来ること」「得意なこと」の把握に努め、食後の後片付け、シーツ交換、お菓子作り、畑仕事等一緒に行っているが、まだ本人と共にすることが足りない、今後徐々に増やしていきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況報告、相談等は密に連絡を取り合うことで、家族との関係を大切にしている。また定期便でグループホームでの生活の様子を家族に知らせている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容店など、入居前に利用していた店を継続して利用できるよう、地域の人との関係が途切れないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格、地域性などを考慮し、座る場所なども配慮しながら、孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に併設老健施設へ入所するケースが多く、終了後の関わりについては、老健相談員を通じて情報提供している。また家族から相談等があった場合も継続した支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールを参考に、これまでの生活から本人の思い、希望等の把握に努めている。また日々の会話の中での、本人の思いや希望等引き出すよう努めている。	担当者は利用者の現状をこれまでの生活歴等も含めツールを活用しながら把握し、その方を理解することに努めている。ふだんの何気ない言葉からも思いを察して、得た情報や様子の変化などは申し送りや連絡ノート、ケース記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、利用者の会話の中から、情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他利用者と交流したり、ひとりで好きなことが自由に行える時間と下肢筋力等の維持のため、ウェルネスプラザ内の散歩を多く取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当がアセスメントチェックの作成とセンター方式を使い、心身の状況を把握し、また毎日のモニタリングをチェックし、ケアの状態の確認や見直しなど現状に即した介護計画を作成している。	利用者の思いに沿いながら出来ることが自信につながるよう、担当者の現状報告をもとに家族等からの聞き取りや主治医の意見もふまえて介護計画を作成している。毎日モニタリング表をチェックして担当者が評価し、見直しや継続に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングの評価、各担当からの気づき等の情報を全職員で共有できるよう、申し送りノートや連絡ノートを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	紙芝居、傾聴ボランティア等の訪問、地域の祭り、イベント等にできる限り参加している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院との連携が取れており、状態にあった適切な医療が受けられている。また本人、家族の希望に沿った町外の医療も受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望に沿って、多くの方が同施設内にある町立病院に職員の付き添いで受診している。他の医療機関を受診する際は、日々の詳細な記録を付き添いの家族に持参してもらい、適切な治療につなげ医師との連携を図っている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老健施設の看護係長が、兼務体制になっており、不安なことがあれば相談できる体制ができている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所長が病院長であり、利用者に関して家族、職員は安心して相談できる環境であり、適切な医療が受けられる。また病院看護総師長は運営推進委員であり、協力が得られる体制となっている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難になった場合のことを考え、家族と話し合いを行い併設老健や特老への入所申請をしている。医療面については、担当医と相談しながら、本人、家族等の意思を尊重しながら支援している。	入居時に利用者や家族に看取りはしないことを説明し、重度化した場合に向け他施設利用の申請をしている。口から食べられなくなったり、入浴困難などの段階で医師や家族と話し合いを重ね次のステージを検討するが、住み慣れた場所で長く生活してもらえよう様々な工夫をしながら最大限の支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生時の対応マニュアルがあるため、それに沿って対応出来るよう、目の届くところに提示している。また家族の連絡がスムーズに行きよう、緊急時のフェイスシートを作成している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は地域、消防署等の協力を得ながらウェルネスプラザ全体の避難訓練、非常招集訓練、防災器具取り扱い説明会を行っている。	毎年のウェルネスプラザ合同の避難訓練では行政担当者や地区代表など多くの参加を得て実施し、講評や参加者の意見を反映し避難策の改善につなげている。また事業所独自で招集訓練や、備蓄・非常持ち出しリストの確認などを行い有事に備えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライドを損ねない対応に努めているが、対応に苦慮している職員がいるため「認知症の支援方法」等の研修に参加させたい。	利用者一人ひとりの個性を理解し目上の方に敬意をもって接するよう話し合っている。また利用者が当番制で行う食事前後の挨拶では生き生きとした一面が見られ、忘れてしまった得意な事もどうしたらできるか検討しその方が輝く場面を引き出している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、遠慮なく自分の思いや希望を言えるよう、例えば選択肢を2～3用意し、できるだけ自己決定できるよう働きかけている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表はあるが、一人ひとりの思いを尊重し、出来る範囲で個別ケアを心掛けている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容(髪整、爪の手入れ)等、外出時の服装等のおしゃれ支援を行い、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から食べたい物を聞き出し、献立に取り入れている。また選択メニューや、誕生日に希望食を提供している。食事の準備に関して、時々皮むき等してもらったことがあるが、準備に関しては定着していない。	予定した献立に、利用者家族や職員から旬の新鮮な野菜など多くの差し入れが加わり、職員の充実した内容の手料理を毎食楽しみにしている。誕生会などの行事には出前やバイキング料理なども登場し、時折の変化も喜ばれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病状等に関して、塩分調整したり、栄養のバランスを考え提供している。水分量は1日を通じ確保しているが、居室でも自由に水分が摂れるようにしている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個々の能力に合わせ、声掛け、見守り介助にて歯みがき、うがい等の口腔支援を行い、清潔に努めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め排泄の失敗を減らすよう支援している。	排泄チェック表を目安として表情やしぐさを常に見て誘導を行い、排泄内容を確認して健康状態をチェックし、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。声掛けは「トイレ」と言う言葉を使わずさりげなく行い自尊心に配慮している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に手作りヨーグルトの提供と水分も十分摂取してもらうよう努めている。また散歩等の運動も取り入れている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ひとり一人の希望に沿った入浴は難しく、事業所の日課に沿って週3回入浴してもらっている。しかし一番風呂に入りたいとの要望等があれば、出来る範囲で希望に沿うよう支援している。	必ず二人介助で安全な入浴を心掛け、利用者の好みやこだわりに気配りし時間や順番を決めている。入浴剤や季節の菖蒲湯・ゆず湯などで香りを楽しむこともあり、職員と会話しながら歌を歌ったり、ゆったり入ってもらっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩等、身体を動かすことを取り入れ、夜間良眠できるよう支援している。また自分のペースに合わせて自由に休息してもらっている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握するため、薬剤情報ファイルを確認し、服薬介助は誤薬防止のため、2人で声出し確認をしている。服薬中の変化時は併設の看護師に報告、指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前後の挨拶を順番制にしたところ、その日は自分の役割として捉え、個々の特徴を生かした挨拶をしてくれる。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画で、花見ドライブ、祭り見学、紅葉狩り、同事業所との交流会を行っている。その他には希望に沿って外食、山菜取りなどに出かけている。また家族の協力を得て本人の希望に沿って外出、外泊等行っている。	自粛生活で外出もままならなくなり、中庭の畑に自ら出て農作業をする方もおり、収穫した野菜が食卓に上ることもある。また全体の建物がつながっている施設内を、途中で売店を覗くなど楽しみながら散歩し筋力低下防止やストレス解消を図っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いは施設預かりとしているが、外出時や併設している売店での買い物は、自分で使えるよう支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話は希望があれば、使用してもらっている。携帯電話を持っている利用者が1名おり、家族と好きな時に連絡している。手紙のやり取りについては、できる限る希望に沿って支援している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに関しては、清潔な環境で利用できるよう、トイレ点検チェック表にて1日3回確認、清掃している。空調は毎日管理している。また利用者と手作り装飾を考えながら、季節を感じてもらえるよう工夫している。	広く明るい居間で1日のほとんどを過ごす方が多く、居室にいる方もお茶の時間には集まり歌や体操でにぎやかに過ごし、活動時間外は一人ひとりが孤独にならないよう目配りして声掛けをしている。トイレは男女別に分けてあり使用中に他の利用者が入らないように、ドアに手作りのプレートを掛けトラブルを防止している。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる場所、馴染みの利用者同士が過ごしやすいようソファや椅子の配置を工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、好きな洋服や、思い出の写真等持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	洗面台・クローゼット・ダンス・ベッド・寝具が備え付けてあり家具や道具は自由に持ち込み、好みや身体状況を考慮し設えている。職員手作りの利用者の個性に合わせた日課表を貼ったり、絵の得意な方は制作に勤しむなど、広くゆったり過ごせる空間となっている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアに段差がないため、車椅子、歩行器使用も安全に移動できるようになっている。また、トイレ、廊下等に手すりが設置されており、できるだけ自立した生活が送れる環境になっている。		